

熊本県立水俣高等学校 平成 2 5 年度学校評価計画表

<p>1 学校教育目標</p> <p>(ア)「平成 2 5 年度県立学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の三綱領「自律・敬愛・創造」の具現化に努め、徳・知・体の調和が取れた全人教育をめざす。 (イ)新設水俣高校の開校にあたり、これまでの水俣高校や水俣工業高校の教育及び伝統を継承し、教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと活力ある学校づくりをめざす。 (ウ)開校における教育理念に基づき、学校像・生徒像・指導の重点に沿った教育に努める。</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>「変化の中で新しい形の創造」 (ア)言語活動の充実－思考力・判断力・表現力を高める－ (イ)生活指導の徹底 (ウ)個に応じた学習指導と進路指導の徹底 (エ)地域と連携した教育活動の展開</p>

3 自己評価総括表						
	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	新設高校としての基盤の確立	基本理念に基づいた教育活動の展開	3年間を見越した教育活動の展開	校長の指導のもと 1・2 学年部が中心となって取り組む	B	校地の移転もあり、水俣工業高校と附則校の両校の良き伝統をどのように新設校に生かすか手探りの状況であった。
	安全で安心して学習できる教育環境づくり	緊急事態対応の徹底(事前・事後)	危機管理マニュアルの作成と巡視による危機管理の取組	教頭と総務部が立案し、学校全体で取り組む(変化に気づく取り組み)	B	校舎の改築が完了していない。工事に当たっては生徒の安全を確保することができたが、危機管理マニュアルは校舎完成時の課題である。
学力向上	基本的な学習態度の育成と基礎学力の定着	宅習時間調査の実施とその活用	年間 5 回実施と調査内容分析を行い、宅習時間を増加させる。	教務部で立案し、学年・教科と連携して取り組む。	B	個人の宅習時間をグラフ化し、確認することができた。宅習時間増加に向けての取り組みを学年・教科と連携して行う必要がある。
	教科指導力の向上	公開授業・研究授業・授業評価の実施	各教科で各学期(1・2 学期)の公開授業の実施、年間 1 回以上の研究授業の実施	教務部で立案し、学校全体で取り組む。	C	公開授業や研究授業を利用しての授業研究や、授業評価を実施しての課題解決に向けての資料提供方法等に課題が残った。
キャリア教育(進路指導)	進路目標の実現	進路に応じた指導の推進	年に 2 回の進路調査の実施、調査結果を活用した個人面談の実施	進路部や学年と連携して取り組む。	B	進路調査結果を活用した担任との面接だけでなく、担任以外の職員 2 名と面談する巡回面談の実施で、進路について幅広く考える機会ができた。
	進路意識の高揚	外部講師等を活用した取組の推進	進路説明会、上級学校説明会、キャリアワークショップ等を実施	進路指導部が立案し、保護者、同窓会、学年と連携して取り組む。	B	計画通りに実施し、進路意識の高揚を図ることができた。
		職場見学や就職講演会を通じた就労観・職業観の育成	企業人との交流を行うことで進路目標やマナー等の意識を高揚させる		B	2 年生のインターンシップでは、学習内容と繋がる経験ができ、進路意識の高揚を図ることができた。

	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	基本的な生活習慣の定着	登下校指導の徹底	年間を通じて取り組む	生徒指導部で立案し、学校全体で取り組む	C	校舎の工事の関係で、生徒の通学経路や通用口の整備に課題がある。
		服装指導の徹底	学年集会で実施		B	学年との協力で、違反の生徒は減少した。
	交通マナーの向上	交通社会に対応できる安全意識とマナーの向上	無事故・無違反自転車かぎ掛け100%		C	違反の件数は少ないが、事故の件数が多い。二重ロックも含め、安全教育の徹底が必要である。
生徒指導	健全な心身の育成	課題を抱えた生徒の実態把握と適切な指導	学期に1回程度の職員研修の実施	特別支援コーディネーターを中心に学校全体で取り組む	B	全職員で支援が必要な生徒について共通理解を図った。また、「ハローワーク」と連携を取り、就職を考慮して療育手帳を取得することができた。
		個別のニーズに応じた指導計画の作成	「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」を作成・実施	特別支援委員会による研修計画と研修を実施する	C	配慮を要する生徒との面談ができず、個別の指導計画の作成・活用には課題が残った。
人権教育の推進	研修の充実と推進体制の機能強化	校内における人権教育の推進	学期1回の人権教育もしくは特別支援教育・校外研修への参加率全職員の80%以上	参加を促すための各種研修など開催の情報を提供し、積極的な参加を促す	B	各学期の校内研修はほぼ全員が参加。生徒理解の研修で職員間の共通理解を図った。各種研究大会の参加を今以上に促していきたい。
	指導方法等の工夫と改善	人権教育 LHR の充実	LHR ごとに事前授業検討会を開催し指導法を検討する	各学年の人権教育係と連携し、学期ごとの人権教育の内容を検討する	B	生徒の状況を踏まえて、学年ごとに LHR を計画・実施した。3 学期の LHR 終了後に更に検討を行う。
	学校、家庭、地域社会における取組の充実	学校での人権教育講演会などの保護者向けの案内等の取組	人権尊重の理念の理解と体得に努め、保護者への周知を行う	学年部の人権教育委員を中心に取り組む	C	保護者と連携した取り組みは十分でなかった。方法を検討したい。
		地域の特性上、水俣病による人権問題の学習	正しい人権意識の習得と理解	人権教育委員会を中心に計画し、学年部と協力して実施する	B	新転任者を対象に水俣病資料館で研修を実施。特設 LHR では語り部の方の講演会で学ぶことができた。
命を大切に する心」をはぐくむ指導の推進	生徒に「命」や「人間関係」について真剣に考えさせることができたか	今年度7回の指導機会（授業）を実施し、生徒の心に訴えかける	LHR や関連のある内容を扱う各教科を組み合わせる各学年の指導計画を立案する	B	1 回目のみ全校生徒で実施。各教科の授業を通して「命」や「人間関係」「言動」について見つめ直す機会を持つことができた。	
言語教育の推進	全教科で取り組む言語教育の充実	図書館活動の充実	朝読書の更なる徹底	全職員で取り組む	B	アンケートの結果、「漢字や言葉を覚えることができた」という効果が高かった。取り組みをさらに定着させたい。
		図書館活用の推進	授業での計画的な図書館の利用の推進	各教科会での図書館活用の計画立案	C	授業での利用時数は月に5時間程度である。各教科への呼びかけが必要。
	書く力の育成	作文・小論文指導の徹底	授業や総合的な学習の時間を活用した計画的な指導に努める	教科・進路指導部と学年部を中心として全職員で取り組む	B	学年の週末課題や総合的な学習の時間で小論文模試を実施し、基礎を中心に指導した。

環境教育の推進	環境教育の推進	学校版環境ISO、グリーンフラッグの継続活動と更なる取り組み	ゴミの分別100% 機械科、電気建築システム科の特徴を活かしたもののづくりの取り組み	週1回の自己チェックシート記入と月1回の見直し・振り返り資源ゴミの再生利用、各科エコに関するものづくり	A	週1回の自己チェックシートの記入は提出状況良好。生徒数増加でゴミの量も増加しているため、分別の更なる徹底が必要。電気科が生徒研究発表会で4Rのものづくり研究を発表した。
地域との連携	生徒・保護者・職員による地域連携	学校行事への地域住民の参加	体育大会・文化祭の広報活動の充実と参加の促進	生徒会を中心として計画立案	B	近隣の小中学校へポスターを持参して広報活動に努めた。今後も行事の内容や広報方法を更に検討していきたい。
	地域行事への参加	地域活動への積極的な参加（スポーツ大会、恋龍祭、他ボランティア）	地域活動への積極的な参加（スポーツ大会、恋龍祭、他ボランティア）	教頭を中心として地域活動を精査し、積極的に参加を促す	B	生徒会、学年、部活動単位で地域の行事に参加した。学校行事や部活動との兼ね合いを考慮しながら今後も積極的な参加を促したい。
	ものづくりを通じた地域貢献の取り組み	機械科、電気建築システム科の特徴を活かした取り組み	機械科、電気建築システム科の特徴を活かした取り組み	「体験学習」「技術ボランティア」の実施	A	機械工作部が制作したエコ電カーを使用して電動モビリティ体験教室を開いたり、建築科では幼稚園行事の舞台道具を製作し、地域に貢献した。

<h4>4 学校関係評価</h4>
<p>○学校評議員会では、ほとんどの項目についてA評価であった。今後も継続して水俣市にある唯一の新設高校として、市民に愛される学校づくりを進めて欲しいとの意見が多数であった。</p> <p>○今回の新設校に対する市民の関心は高く、校舎の改修や校内がどのように変化しているか大変興味を持っている。校内を見る機会がないため、学校の施設設備の見学会などを実施し、地元の高校として、もっと市民へ新設校のPR活動に積極的に取り組んで欲しいとの意見もいただいた。</p> <p>○新設高校では、進学と就職の両面からしっかりとした指導に取り組んでもらうことを期待している。</p> <p>○授業参観させてもらい、先生や生徒の声も大きく、良い信頼関係の中で明るい学校生活を見ることができた。</p> <p>○4月から通学経路が変わったこともあり、登下校時のマナーが悪い。事故や怪我防止のためにも徹底した交通指導をして欲しい。また、通学路や通用口が整備され、地域の方々にも周知されれば、地域住民も協力できるのではないかと意見もあった。</p>

<h4>5 総合評価</h4>
<p>○今年度4月から水俣工業高校の校地に、新設水俣高校の1・2年生の生徒と全ての職員が移り、同一校地に2校で校舎併用が始まった。まだ改修工事も継続中であり、できるだけ授業に支障がないように配慮する1年間でもあった。年度当初は、使用教室が重なる場面もあったが、その都度素早い対応で解決することができた。</p> <p>○学校評価アンケートでは、生徒、保護者、職員ともかなりの項目でAとBの評価が大半を占めた。ただし、学力向上と保護者・地域住民との連携において、C評価の数値がやや高い。地域との連携については、生徒会、学年、部活動、学科単位で地域行事に参加し、貢献している場面もあるが、学校全体として取り組んでいる意識が低いと思われる。今後改善策を講じる必要がある。</p>

<h4>6 次年度への課題・改善策</h4>
<p>いよいよ次年度は新設水俣高校の完成年度となる。これからこの地域に唯一の高校としての土台作りが急務となっている。これまであまり例のない普通科・商業科・そして工業科という複数の学科が併設する学校であるため、特に進路指導の在り方や指導方法、多様な生徒に対する教育体制、そして、さまざまな学校行事の精選、実施要領など改めて見つめ直し、早急に確立することが求められる。水俣工業高校と水俣高校（附則）のそれぞれの良き伝統を受け継ぎ、新設校が地域にしっかりと受け入れてもらえるような学校づくりを進めていかなければならない。さらに、生徒、保護者そして地域から信頼される学校づくりを目指し、その実現のために今まで以上に高い目標が達成できるように職員一同取り組んでいきたいと考える。</p>